



国際月間

本学では、国際理解及び異文化交流の促進を目的に、毎年様々な行事を開催しています。本年度は10月を国際月間と位置づけ、以下のような国際交流を行いました。

リトアニア共和国大統領来日特別記念講演及び名誉博士号授与式 10月24日



ギターナス・ナウセーダ リトアニア共和国大統領を迎え、特別記念講演及び名誉博士号授与式を開催しました。大統領は、「即位礼正殿の儀」への出席のため来日され、リトアニア共和国（以下リトアニア）と深い交友関係にある岐阜県を訪問されたことから、本講演を実施する運びとなりました。

学生・教職員約400人が聴講する中、"Lithuania and Japan : The way forward"と題し、リトアニアと日本の交流の歴史、文化、

経済、今後の関係について講演され、「両国が更なる交流を深め、一度築いた関係が決して途絶えることのないように祈っています。」とのメッセージが送られました。

リトアニアとの交流を精力的に行っている本学において、本講演は教育研究及び国際交流の推進に大きく寄与するものであり、友好関係の更なる構築を期待して、大統領に名誉博士号を授与しました。

講演の様子(YouTube) ▶



10月 国際月間 活動内容

2日～30日 国際広報展

7日・8日 岐阜ジョイント・ディグリー国際シンポジウム2019

9日 第6回English Circle of Friends

24日 リトアニア共和国大統領来日特別記念講演及び名誉博士号授与式

29日 学長主催国際交流パーティ

30日 2019年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム 岐阜地区ワークショップ
第7回English Circle of Friends



本年度4月に開設されたジョイント・ディグリー (JD) プログラムの始動を契機に、「岐阜ジョイント・ディグリー国際シンポジウム2019」を開催しました。JDとは、連携する大学間で共同の教育プログラムを行い、単一の学位を授与するもので、本学はインド工科大学グワハティ校 (IITG) とマレーシア国民大学 (UKM) との間に新しく4つの国際連携専攻を開設しました。本シンポジウムの基調講演者に文部科学省高等教育局佐藤邦明国際企画室長を迎え、本学森脇久隆学長、IITGティー・ジー・シタラム学長、UKMムハマド・ハムディ・アッ

ブドゥール・シュコール学長、インド政府北東インド評議会シュリ・ラムガンニング・ムイバ長官、IITGガウタム・ビスワス前学長等、国内外の大学関係者や公的機関、自治体や地元企業の役員約220名が参加しました。持続可能な開発を考えるアカデミックシンポジウムや、国際連携による社会貢献について討論する日印馬産官学パネルディスカッション、また北東インド地域商工会及びJD1期生からのビデオメッセージ等を通し、様々な視点からJDプログラムの意義を考察する機会となりました。



佐藤国際企画室長の基調講演



森脇学長のあいさつ (右から)UKM学長、IITG学長



森脇学長(左)とムイバ長官

北東インド地域商工会代表団来日

11月10日～11月15日

北東インド地域商工会の代表団との企業等見学ツアーを実施しました。本ツアーは、インド工科大学グワハティ校と協働で設置したジョイント・ディグリープログラム (国際連携専攻) における教育活動を地域に還元する礎を築くことを目的に催行されました。岐阜県羽島市に所在するテキスタイルマテリアルセンターにて、羽島市長及び羽島市商工会への表敬訪問を皮切りに、岐阜県、愛知県、三重県及び東京都内の13企業等を視察しました。



十二単の着装と体験



12月11日

日本語・日本文化教育センターは、留学生や日本人学生及び教職員を対象に、日本文化の体験型教育の一環として日本文化ワークショップ「十二単の着装と体験—日本の民族衣装—」を開催しました。「本物にふれる」をコンセプトに、雅楽が流れる厳かな雰囲気の中、講師が留学生モデルに色鮮やかな衣を着付けていく様子に、参加者は皆興味深く見入っていました。



ウィンタースクール

12月2日~12月27日

インド  マレーシア  ジョイント・ディグリープログラム (国際連携専攻) の連携大学である、インド工科大学グワハティ校及びマレーシア国民大学から5名の学生を受け入れ、第5回ウィンタースクールを開催しました。参加学生は、研究室でのラボワークや日本文化体験 (十二単の着装、和菓子作り)、企業見学等様々な活動を行いました。



思いもよらない旅

自然科学技術研究所
コウ ユウ ウェイ



マレーシア

日本で学ぶという貴重な機会に恵まれるとは思っていませんでした。長期に渡って海外に住むのは、私にとって初めてのことです。日本の第一印象は、礼儀正しさです。この地に足を踏み入れ、日本の人々、特に研究室の仲間と過ごすことで、それを実感しました。目が回るほど忙しい学生生活の中で、仲間と共に喜びを分かち合い、冗談を言い合えることに感謝しています。ここでの楽しい経験は、ますます私を日出ずる国の虜にさせました。どんな困難に直面しようとも、常に前向きに取り組んでいきたいです。



海外への留学

海外留学フェア2019秋

11月13日

「海外留学フェア2019秋—広げよう留学の輪—」を開催しました。本年度より、留学経験者が中心となって留学プログラムのブースを運営し、訪問した学生と直接交流ができるよう、フェアの企画を刷新しました。留学プログラムの紹介や奨学金制度の説明がされた後、各ブースにおいてプログラムの詳細や体験談が報告されました。



交換留学

地域科学部
中村 真子

ユタ州立大学



アメリカ合衆国

2018年8月から2019年4月にかけて、米国ユタ州立大学に留学しました。とても充実していた8か月間でした。出発する前にもアメリカの大学はとにかく勉強、勉強で、課題も多いと聞いていましたが、想像の倍大変でした。そんな時、助けてくれるクラスメートと一緒に遅くまで勉強した友人、またいつでも真摯に教えてくださる先生方のおかげで、より充実した学びを得られたと思います。もちろんリフレッシュも大切です。休日には息抜きにルームメートと食事を作ってたくさん話しましたし、一緒に出掛けることもありました。日々刺激を受けることがいっぱい、たくさん考え、たくさん人と話した8か月でした。



ノーザンケンタッキー大学学長来学

11月1日



大学間学術交流協定校である米国・ノーザンケンタッキー大学(NKU)からアシシュ・バイディア学長とフランソワ・ルロイ理事が来学し、本学学長を表敬訪問しました。本学とNKUは、短期留学や交換留学等を通して、毎年多くの学生が交流しています。本訪問では、両大学の留学プログラムの特徴や魅力を確認し、更なる活発な友好関係の構築について意見交換が行われました。



防災イベント 災害への備え

12月14日

本学と岐阜市(公益財団法人岐阜市国際交流協会)との共催で「防災イベント 災害への備え」を開催しました。「外国人市民のための防災体験」講座(外国人向け)では、災害時の適切な対応の仕方や、体育館に設営した避難所の体験が行われ、「災害時の外国人支援を考える」講座(外国人支援者向け)では、言語や文化の異なる人々への支援や対応について話し合われました。参加者は非常食の試食、AEDの操作、指定避難所の確認等を通して防災知識を身に付けました。



愛岐留学生就職支援コンソーシアム事業 文部科学省委託事業 留学生就職促進プログラム

地元企業との 交流会

11月27日

日本での就職を希望する留学生に、岐阜県内の企業を広く知らせることを目的とした地元企業との交流会を岐阜信用金庫、朝日大学と共同開催しました。グローバル展開をする地元企業12社とテストマーケティングに参加した菓子メーカー3社がブースを出展し、60名の留学生が参加しました。本年度の新たな試みとして、本交流会で構築した留学生と企業の繋がりを更に進展させるためのインターンシップ相談窓口を設置しました。



岐阜地区

ワークショップ | 10月30日

愛岐コンソーシアムに参画する岐阜県内の4機関(岐阜県、岐阜県経営者協会、ジェトロ岐阜、岐阜大学)の共催で、留学生が地元企業に就職する際の課題や支援を考えるワークショップを開催しました。留学生、企業、教育機関等から83名が参加し、講演会、ネットワーキング、立食形式懇談会を通して情報を共有し、交流を深める場となりました。



岐阜地域留学生交流 推進協議会

岐阜地域留学生交流推進協議会 (岐留協)とは

岐阜県内における留学生の円滑な受入れと交流活動の推進を目的に、大学等、地方公共団体、経済団体、国際交流関係団体及び民間団体が組織されています。

岐阜県内外国人留学生 日本語弁論大会 | 11月23日

岐留協は、外国人留学生の日本語学習意欲の喚起及び日本語の表現能力の向上を目的に、日本語弁論大会を実施しています。本年度開催した第18回大会では、県内の5機関から参加した13名(6か国)の留学生が日本語でスピーチを行い、日頃の努力の成果を発揮しました。

